

「地域を愛し、力強く進路を切り開いていく生徒の育成」
～地域に貢献できる人材の育成を目指して～

本校の概要

佐世保市立江迎中学校

佐世保市江迎町乱橋 5 8 4 番地

校長 山邊修治

生徒数 1 3 2 名

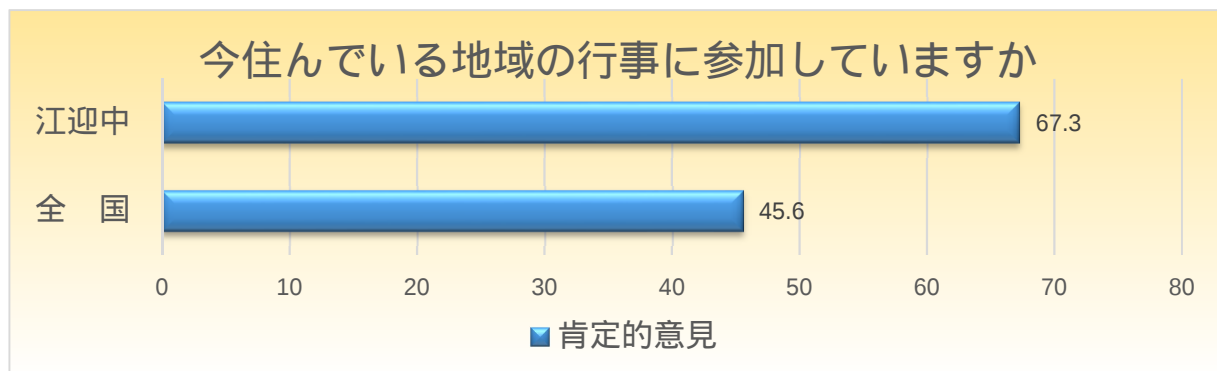
学級数 7 (普 5 ・ 特 2)

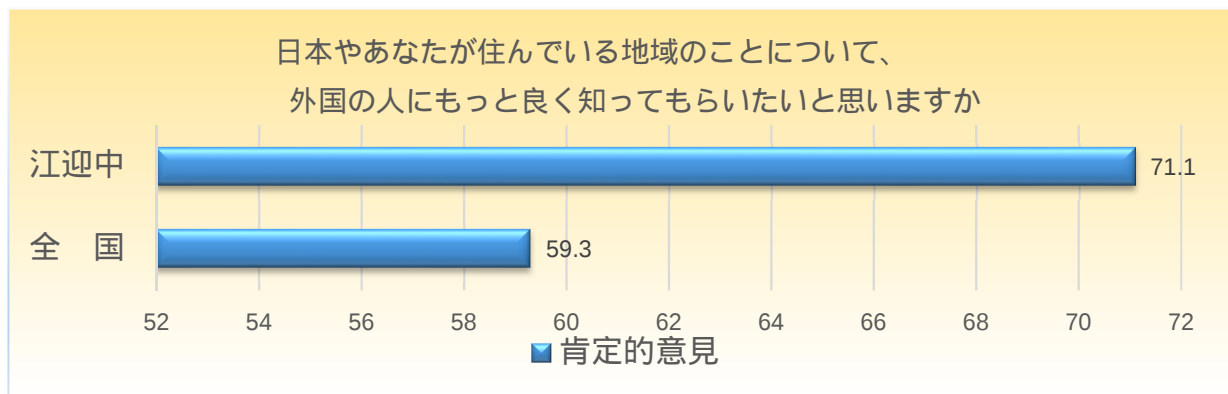
江迎中学校は佐世保市の北部に位置し、学校の立地する江迎町には旧平戸街道沿いに発達した歴史の古い商家や名刹が存在している。同町は旧産炭地であり、かつては賑わいを見せていたが、炭鉱閉山後は人口も減少し、平成 2 2 年には佐世保市に編入されることとなった。しかし、地域の人々は町政時代を忘れることなく、独立心をもって文化活動や教育に意欲的に取り組んでいる。江迎中学校もそのような人々に支えられ、期待される存在として、生き生きとした教育活動を行うことができています。生徒たちは素直で明るく、規律正しい。しかし、のんびりした子が多く目的意識や競争心が乏しいため学力の向上は大きな課題と言える。そのため本校では、「特色ある学校づくり対策事業」を通して、地域に恩返しできる、優秀な人材を育成するため、様々な取組を立案し実践してきた。

実践内容・成果

○地域を愛する気持ち

令和元年度の全国学力学習状況調査の意識調査より





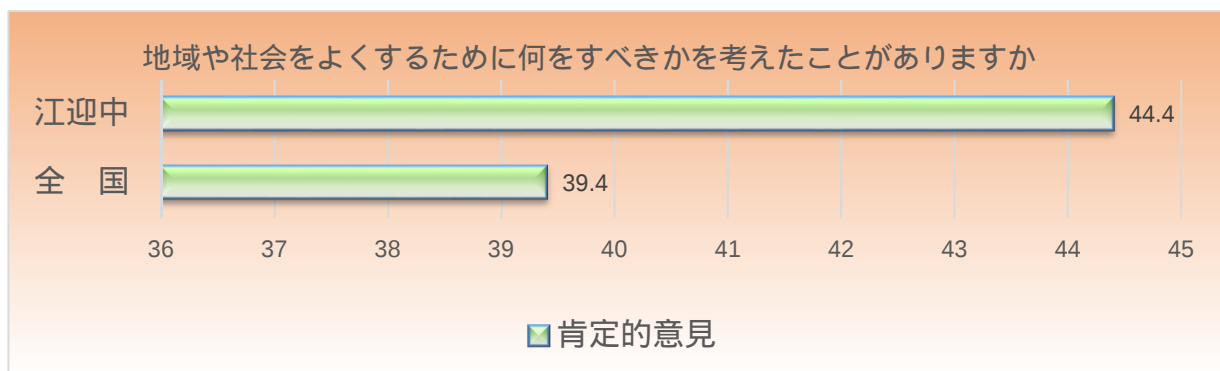
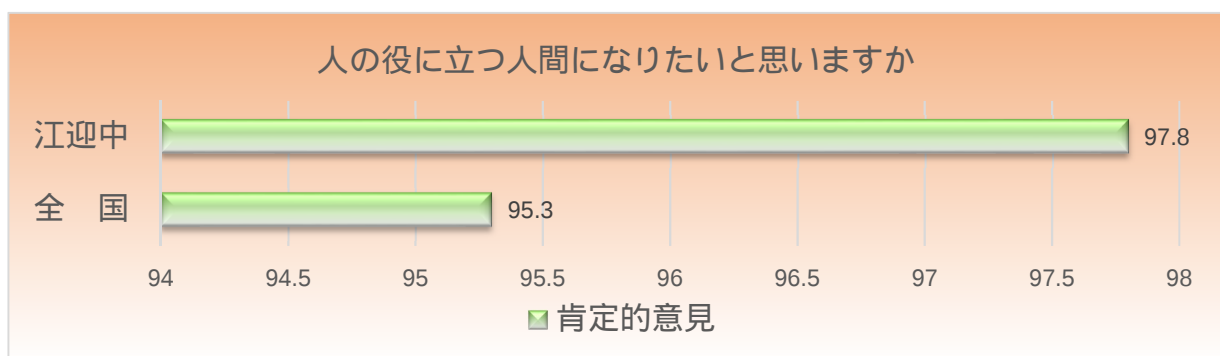
地域のよさこい踊り(乱舞龍)を、体育大会(4/28)、地域の祭りの千灯籠(8/24)で披露した。また、地元福祉施設でのよさこい踊り、地域ボランティアなどを実施した。千灯籠祭では、美術部の生徒が作った灯籠も置かれるなど、学校はもとより地域の方々を大いに鼓舞することができた。



各種調査の結果を見ると、生徒・保護者ともに地域との連携を十分実感している。また、地域の方々から直接肯定的な言葉をかけていただく機会も多い。本事業で取り組んでいるよさこい踊り振興の成果による所が大きい。

○進路を見つめて

令和元年度の全国学力学習状況調査の意識調査より



近隣の高校との連携を深めた。2月には清峰高校の総合学科発表会に2学年が参加し、高校生の学びの実際を見聞した。また高校用の教科書を購入し展示した。

実際に高校生の学習活動を見ることで、将来に向けて何をしていけばよいのかを実感し、キャリア教育の促進につなげることができた。

また、高校入学後の学習内容を知ることができ、中学校での学習意欲を高めることができた。



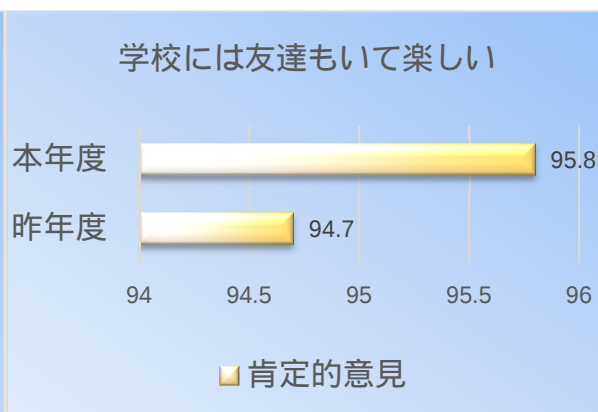
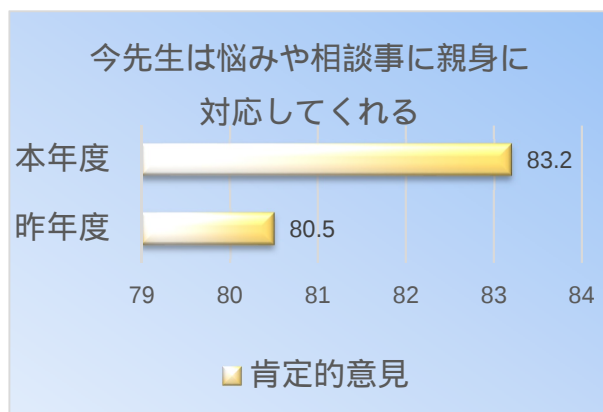
9月には2年生が5日間、江迎町を中心とする地域の事業所で職場体験学習を行った。

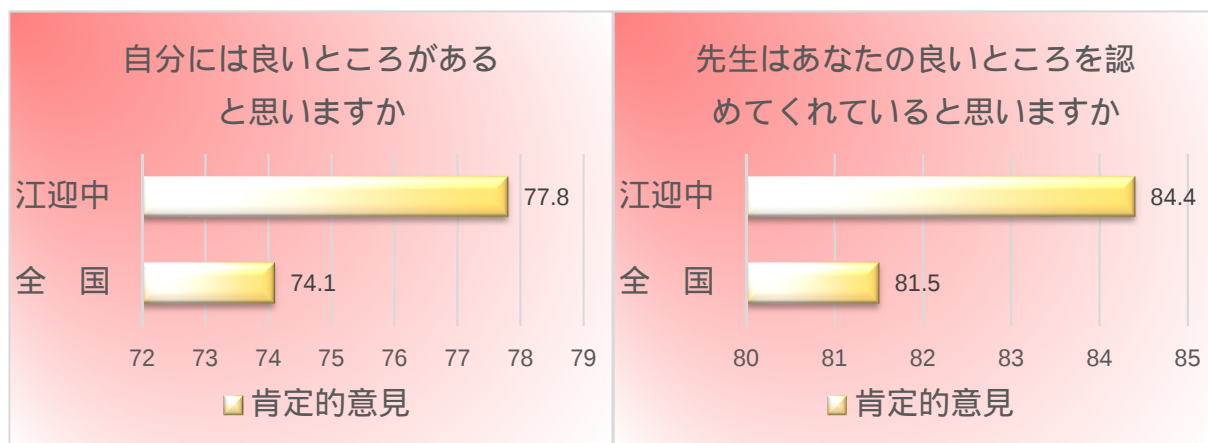


地元の事業所で、幼少時より顔なじみの地域の方々のお世話になりながら職場体験をすることで、勤労の喜びや大変さを深くかみしめることができた。そのため、他者のために働くことの意義を深く感じ取ることができた結果であると考える。また、本校の課題である学力向上に向けての取組も多様な形で行った。

○学び続ける職員・生徒

令和元年度江迎中学校学校評価の結果より





校内研修テーマ「すべての生徒の学びを保証するための授業改善～自ら考え、互いに学び合う授業の実践をとおして～」の実現のため、学びの共同体の専門家である外部講師を招聘し、教職員の指導力の向上に努めた。学びの共同体での学習を進めてきたため、安定して意欲的に授業に取り組んでいる。しかし、学習態度は良いが学力の定着に結び付いていない。今後はより研究を深め、生徒たちの学力の保障を進めていかなければならない。



教科連絡帳は、学力向上を主目的に導入したものだが、毎日学級担任が丹念に目を通しコメントを書いている。そのため、生徒と教職員との心の絆が強められたと考えられる。本校で研究を推進している「学びの共同体」では、良好な友人関係など学習環境の整備が基盤となるが、本事業により学習の基盤作りが整ったと言える。

今年度の重点

本校に対する地域や保護者の期待は大きく、中でも学力向上については、学校としても近年継続して取り組んでいるが、最大の関心事と言える。しかし、生徒たちの学習意欲の喚起や家庭学習の定着、自主的な学習態度の育成に対してはまだまだと言わざるを得ない。全国学力調査や、県、市の学力調査の結果を見ても、学力向上への取組に対して改善の余地があり、授業改善をさらに進めていくことが必要である。

そのためには、まず校内研修の活性化が肝要である。今後は外部講師を計画的に数回招聘し、職員も意識を高めていかなければならない。また、生徒たちに進路意識を持たせ、学習に対する目的意識を持たせることも重要である。進路学習に関する時間を充実させていきたい。

学校評価の結果はおおむね良好であったが、その中で落ち込んでいたのは、生徒自身が「読書の習慣がない」と認識している点である。読解力向上にも関係するものにとらえ、読書習慣の定着を目指し、書籍の購入や地域人材の活用を今以上に積極的に行っていきたい。